

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所みのりあ		
○保護者評価実施期間	2026/2/2		2026/2/20
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	2026/2/16		2026/2/20
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との信頼関係の構築	事業所では、日々の送迎時の対話や連絡帳、個別面談を通して、保護者との丁寧なコミュニケーションを大切にしている。子どもの成長や課題を具体的に共有し、不安や困り感に寄り添う姿勢を重視している。 家庭との連携を図りながら、安心して通所いただける関係づくりを継続している。	<ul style="list-style-type: none"> ・否定ではなく「できている点」を軸に伝える ・専門的視点をわかりやすい言葉で説明する ・保護者の不安や困り感を傾聴する姿勢を重視
2	発達段階に応じた支援プログラム	個々の発達特性や課題に応じた個別・小集団支援を実施している。活動は成功体験を積み重ねられる構成とし、楽しみながら意欲を引き出せるよう工夫している。 また、支援後の振り返りを行い、職員間で支援方針を共有しながら質の向上に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚支援の活用 ・スモールステップでの目標設定 ・振り返りによる職員間の支援改善
3	職員間の情報共有と支援の統一	日々のミーティングや記録の共有を通して、子どもの小さな変化にも気づける体制を整えている。 支援目標や対応方法について職員間で共通理解を図ることで、継続性・一貫性のある支援の提供に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース検討会の定期開催による多角的視点の強化 ・支援記録の様式統一および記録内容の質向上 ・外部研修参加による専門性の向上と内部共有研修の実施 ・ICT活用による情報共有の効率化 ・自己評価および振り返り機会の定期的な設定

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニングの未実施	当事業所では、日々の送迎時の対話や個別面談等を通して保護者支援を行っているが、体系的なペアレントトレーニングの実施には至っていない。 主な要因としては、職員体制上の時間確保の難しさや、専門的プログラムを計画的に実施するための準備体制が十分でなかった点が挙げられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門研修への参加による知識・技術の向上 ・短時間・少人数制でのミニ講座の開催 ・資料配布やオンライン活用等、保護者の負担を軽減する方法の導入 ・年間計画への位置付けによる実施体制の整備 <p>今後は段階的に保護者向け学習機会を設け、家庭と事業所がより一体となった支援体制の構築を目指す。</p>
2	安全対策に関する周知の強化	事故防止マニュアルおよび緊急時対応マニュアルは整備し、職員間での共有および定期確認を実施している。一方で、保護者へ体系的に説明する機会が十分とは言えず、安全体制の内容が十分に伝わっていない可能性がある。 入所時の説明が口頭中心であったことや、概要資料の配	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル概要版の作成および配布 ・入所時説明資料への明記と説明時間の確保 ・保護者会等での安全対策の説明機会の設定 ・定期的な周知確認および情報発信の継続 <p>安全管理体制の「見える化」を図り、保護者がより安心できる環境づくりに努める。</p>
3	情報管理体制の強化	個人情報保護規程および記録管理体制は整備しているが、法令改正や情報管理の高度化に対応するため、継続的な研修や確認体制の強化が必要であると考えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な個人情報保護研修の実施 ・書類および電子データ管理方法の見直し ・チェック体制の明確化と内部点検の実施 <p>今後も適切な情報管理体制の維持・向上に努める。</p>